

瀬戸 遥 SETO, Haruka  
<http://www.big.or.jp/~seto/>  
<http://hp.vector.co.jp/authors/VA006682/>

# Visual Basic .NET コッコ 倶楽部

第20回

## SQL Server 2005 Expressのデータを クエリでゲットーその1ー



### SQL Server 2005 Expressのデータにアクセス!

Visual Basic 2005では、新しいデータアクセス用のコントロールが追加されており、データの操作が一層簡単になりました。

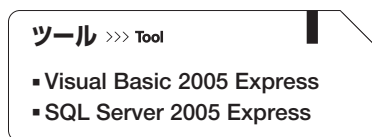
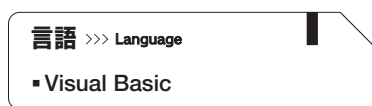
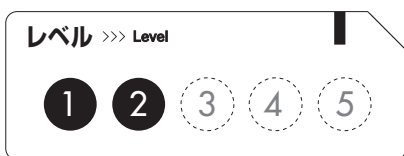
そこで今回は、SQL Server 2005 Expressに格納しているデータをクエリで取得し、フォームに表示するプログラムを作成してみます。



### サンプルデータベースの中身

サンプルプログラムに収録されているデータベース(社員データ2006.mdf)は、以下3つのテーブルから構成されています。

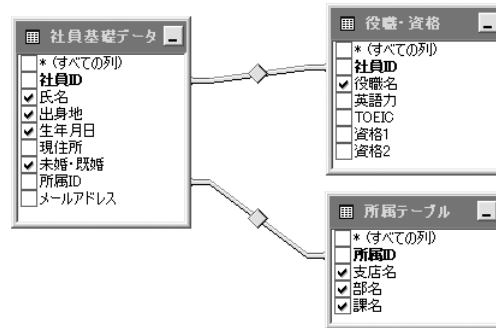
- ① 「社員基礎データ」テーブル：全社員の情報を格納
- ② 「役職・資格」テーブル：社員の役職と、取得している資格情報を格納
- ③ 「所属」テーブル：社員の所属情報を格納



各テーブルはひとつのフィールドでリレーションされており(図1)、社員情報一覧を作成する選択クエリをひとつ持っています。

なお、SQL Server 2005 Expressのデータベースを作成する方法については、記事末のコラムを参照してください。

図1：テーブルとリレーション



## データアクセスする方法

Visual Basic 2005 ExpressからSQL ServerやAccessのデータにアクセスするには、以下の2つの方法があります。

### データソースウィンドウを使う

ひとつは、データソースウィンドウを利用する方法です。データソースウィンドウは、Visual Basic 2005から搭載された新機能です。データソースウィンドウを表示するには、メニューから [データ] - [データソースの表示] を選択します。

データソースウィンドウを使うと、ウィザードの画面に従うだけでDataSetオブジェクトを自動作成できます。また、プロパティウィンドウの操作によりデータベースへの接続とクエリの実行コードを自動作成できます。



## データソースウィンドウでクエリを実行する

まず最初に、データソースウィンドウを使ってSQL Server 2005 Expressのデータベースにアクセスし、データベース上にある既存の選択クエリを実行してみよう(SQL Server 2005 Expressで選択クエリを作成する方法については記事末コラムを参照してください)。

### Sql系コンポーネントを使う

もうひとつは、Visual Basic .NET 2002/2003にも搭載されていた「Sqlxxxx」のコンポーネントを使用する方法です。「データアダプタ構成ウィザード」を使用して、クエリ用DataSetオブジェクトを作成します。ただし、クエリの実行コードは自分で書かなければいけません。

以降では、この2つの方法でSQL Server 2005 Expressのデータにアクセスし、選択クエリを使用して社員情報一覧を表示する手順について紹介します。そのため、今回のサンプルプログラムは、データソースウィンドウを使用したサンプル (SQLアクセス) と、Sql系コンポーネントを使用したサンプル (SQLアクセス2) の2種類を用意しています。以降の解説と合わせて参考にしてください。

### アクセスしたいデータベースの選択

まず、データソースウィンドウ内にある「新しいデータソースの追加」(図2) をクリックします。すると、「データソース構成ウィザード」が起動します。最初の画面で「データベース」が選択されているのを確認し(図3)、[次へ] ボタンを押します。